

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 千葉県 】

1 実践テーマ	【 I・III・V 】
2 実施対象者	学校名 : 大椎中学校 対象学年 : 3学年 クラス(人数): ABCD組 (67人)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育科・ <u>保健体育科</u>) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	モデル校での実践等を通して、体育・保健体育の学習を充実させ、子供たちが、よりスポーツを好きになり、生涯にわたって運動に親しむ資質を育むこと、健康の保持増進のための実戦力の育成と体力の向上を図ることを目的とする。
5 取組内容	○シットティングバレーボール (全4時間) ・オリエンテーション ・座位でのフットワーク ・ペアでのラリー練習 ・グループでの円陣パス ・ゲーム ・振り返り *映像資料を用いて、視覚的に興味が持てるようにした。 *ゴム素材のソフトバレーボール、ビニル素材のビーチバレーボールを使用し、痛みへの配慮とラリーが続けやすくなるように滞空時間が長くなるように工夫した。 *主にバドミントンコートを使用した。エンドラインを手前に設けることで、ほぼ正規のコートサイズで実施することができた。 *チームでの作戦タイムやチーム練習の時間を設け、作戦ボード(木枠ボード)を活用しながら話し合いの充実を図った。 *ラリーが続きにくく、ゲームの満足度の上がりにくさを感じた。ねらいを3つ「ゲームでラリーを続ける【動】」「話し合い活動・声掛けの充実【声】」「学習カードの充実【書】」に置くことで、生徒の充実度が下がらないように工夫した。
6 主な成果	・パラスポーツへの関心が向上し、2020年にはボランティア等での関わりに興味を持つ生徒が増加した。 ・生涯スポーツへの関心が向上し、長年にわたって楽しめるスポーツとのかかわり方を学ぶ機会となった。 ・チームでの時間を多用し、作戦ボードの工夫や学習カードを充実させたことで、技能面に偏らず思考面や知識面にも関心を広げて活動することができた。

<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 映像資料を用いて、視覚的に興味が持てるようにした。 • ゴム素材のソフトバレーボール、ビニル素材のビーチバレーボールを使用し、痛みへの配慮とラリーが続けやすくなるように滞空時間が長くなるように工夫した。 • 主にバドミントンコートを使用した。エンドラインを手前に設けることで、ほぼ正規のコートサイズで実施することができた。 • チームでの作戦タイムやチーム練習の時間を設け、作戦ボード(ホワイトボード)を活用しながら話し合いの充実を図った。 • ねらいを3つ「ゲームでラリーを続ける【動】」「話し合い活動・声掛けの充実【声】」「学習カードの充実【書】」に置くことで、生徒の充実度が下がらないように工夫した。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 運動量が少ない。動きが制限されるため、ラリーが続けにくい。 (ボールを両手で追うことにこだわりすぎないようにさせ、「片手を地面に置き、落下点に即座に移動し、片手でボールを追う」ように意識させたことで、ラリーが続けやすくなったようである。) • 授業時間を4時間で実施したが、生徒の関心や技能が徐々に向上し、6～8時間程度あってもよかったと感じる。 • 11月中旬～下旬に実施したことで、ジャージ下を履いて行うことができた。滑りやすく(移動しやすく)なった。暑い時期だとジャージに抵抗があり、汗ばんで移動しずらくなると感じる。また冬場だと活動量が少なく、寒さを感じて意欲の低下につながると考えられる。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 今回の経験を生かして実施したいと考えている。 • 今回は3年生で実施したが、他学年の生徒も関心を示しており、具体的には「やってみたい」「シッティングバレーって面白そう」「2020年に千葉市でやるのが嬉しい」といった声を聞くことができた。 • バレーボールの基本技能が身に付いていなくても十分に対応できると感じたため、秋季での実施を検討していきたい。 • 現中学1～3年生が、2020年には高校1～3年になる。ボランティアや現地市民としてオリパラへの関わりが求められるため、オリパラスポーツへの興味関心や理解力の向上、英語力の強化、コミュニケーション力の向上が必要だと感じる。今年度のみの一過性の取組で終わることなく、次年度以降も継続して実施していきたいと考えている。 <p>(本校では、保健体育科の授業実践の時期と併せてオリパラに関する内容を英語の授業を通じて行い、生徒の興味関心の向上を図った。)</p>